

福島駅(JR環状線)

投機の神様・浦江聖天から王仁博士の社へ

福島駅(阪神本線) 新福島駅(JR東西線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.007

JR・阪神福島駅

古来、福島の地は海に近く、廻船人や船頭の住む村でした。菅原道真が「飢餓島(餓鬼島)」という名前を「福島」に改めたといわれています。

①福島聖天通商店街

金曜日の宵には多くの占い師が出揃って占い客で賑わいます。そこで「売れてもうらない商店街」といわれるようになりました。浦江聖天への参道として発展した商店街です。浦江聖天は相場師や占い師の信仰が厚い寺で、占い商店街とのゆかりがわかります。



②あみだ池筋

あみだ池筋を南に行くと、国道2号線(曾根崎通り)と交差します。さらに南に進むと、芥川賞作家の田辺聖子の生家の写真館(戦災で焼失)がありました。

③浦江聖天(如意山了徳院)

昔から庶民信仰の盛んな寺で、株の相場師、遊女、商売人など投機的な生業の人々が足しげく通いました。北前船で莫大な利益をものにした淡路の廻船商・高田屋嘉兵衛も日参したと伝えられています。易の大家・水野南北の靈験譚も残っており、いまでも1日・15日には易者が占いを立ててくれます。水商売の神様としても崇められ、曾根崎新地の芸妓の名前が玉垣にあり

ます。藤でも有名で、江戸時代から浪花名所案内にあり、大田蜀山人も日記に記しています。さらに有名なのがカキツバタで、芭蕉も訪れ、「かきつばた 語るも旅の ひとつかな」の句を詠みました。芭蕉の「杜若塚」があります。



④妙壽寺

「浦江のとげぬき稻荷」の赤い幟の立つこの寺は、座禅の道場で、禅寺です。花の名所でもあり、明治の半ばごろまで萩の寺、蓮の寺として名所案内に記されていました。また、浦江の毘沙門天としても知られ、大店の商人が稼業繁栄を祈願しました。

⑤浦江八坂神社

素戔鳴尊神社とも称している古い神社で、八十島祭にも関係しているとされています。境内に王仁社があります。『古事記』によると、王仁は百濟から派遣されてきた賢者で、漢字や儒教を日本に伝えたとされます。王仁氏の墓は大淀の大仁にあつたとされ、この王仁社はそこから現在地に遷宮してきたものです。「なにはづに さくやこの花 ふゆごもり いまははるべと さくやこのはな」は王仁が詠んだ歌で、『古今集』の仮名序に登場する有名な歌です。

⑥浦江公園

浦江八坂神社を取り巻く浦江公園は、桜の名所です。花見時には大勢の人で賑わいます。

JR・阪神福島駅

